

がん化学療法レジメン登録票

新規レジメン登録の際にはプロトコールの提出が必須です  
プロトコールがない場合は参考文献を提出してください

レジメン名	AVAPERL induction
診療科名	呼吸器内科
診療科責任者名	三沢 昌史
適応がん種	進行NSCLC(扁平上皮がんを除く)
保険適応外の使用	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無

がん治療ワーキンググループ使用欄	
登録番号	NSCLC-55
登録日・更新日	登録日2015年5月26日 更新日2016年11月22日・2023年8月22日
削除日	
出典	Ann Oncol. 2014;25:1044 J Clin Oncol. 2013;31:4349
入力者	小倉 宏之

投与順に記入(抗がん剤のみ)						
	薬剤名:一般名 (薬剤名:商品名) 希釈液	規格	投与量算出式	投与経路	投与時間	施行日
No.1	ペバシズマブ(遺伝子組換え) (ペバシズマブBS点滴静注)	100mg、400mg	7.5 or 15mg/kg	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	90分	Day1
	生理食塩液	100mL				
No.2	ペトレキセドナトリウムヘミペンタ水和物 (ペトレキセド点滴静注)	100mg、500mg、 800mg	500mg/m <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	10分	Day1
	生理食塩液	100mL				
No.3	シスプラチン (シスプラチン点滴静注)	10mg、50mg	75mg/m <sup>2</sup>	<input type="checkbox"/> IV <input checked="" type="checkbox"/> DIV <input checked="" type="checkbox"/> CVポート <input type="checkbox"/> 側管 <input type="checkbox"/> その他( )	2時間	Day1
	生理食塩液	500mL				

1コースの期間	21日
投与間隔の短縮規定	<input checked="" type="checkbox"/> 短縮可能(1日)・ <input type="checkbox"/> 短縮不可能
計算後の投与量上限値	110%
計算後の投与量下限値	50%

減量・中止基準	<p>【減量基準】</p> <p>以下のいずれかに該当する場合ペトレキセド、CDDPともに前回用量の75%に減量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低好中球数&lt;500/mm<sup>3</sup>及び最低血小板数≧50,000/mm<sup>3</sup></li> <li>・好中球数に関わらず最低血小板数&lt;50,000/mm<sup>3</sup></li> <li>・粘膜炎を除くグレード3又は4の毒性</li> <li>・入院を要する下痢(グレードは問わない)又はグレード3若しくは4の下痢</li> </ul> <p>以下のいずれかに該当する場合、前回用量の50%に減量</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最低好中球数に関わらず出血を伴う最低血小板数&lt;50,000/mm<sup>3</sup>(ペトレキセド、CDDPともに減量)</li> <li>・グレード3又は4の粘膜炎(ペトレキセドのみ減量)</li> <li>・グレード2の神経毒性(CDDPのみ)</li> </ul> <p>【中止基準】</p> <p>グレード3以上の神経毒性</p> <p>グレード3以上の血液毒性あるいは非血液毒性が認められた場合</p> <p>2回の減量後にグレード3若しくは4の血液毒性あるいは非血液毒性が認められた場合</p> <p>いずれかに該当する場合休業する(ペバシズマブ): 蛋白尿(2g超/日)、本薬に起因するGrade3以上の肝機能障害、Grade3の血栓症/塞栓症</p> <p>いずれかに該当する場合中止する(ペバシズマブ): Grade4(蛋白尿、血栓/塞栓症) Grade3以上(出血、薬剤</p> <p>でコントロールできない高血圧、本薬に起因する過敏症) 消化管穿孔または裂開</p>
前投薬	<p>5-HT3受容体拮抗型制吐剤 + デキサメタゾン + アプレピタント内服</p> <p>ペトレキセド初回投与の7日以上前から葉酸として1日1回0.5mg(バンビタン1g)を連日経口投与する(ペトレキセドの投与を中止又は終了する場合には、最終投与日から22日目まで投与する)</p> <p>ペトレキセド初回投与の7日前(ドネルB12として1回1mg(メコバラミン注2A)を筋肉内投与する(ペトレキセド投与期間中及び投与中止後22日目まで9週ごと(3コースごと)に1回投与する)</p>
その他の注意事項	<p>ペバシズマブの点滴時間: 初回90分、2回目以降は忍容性に応じて60分、30分に短縮可能</p> <p>ペバシズマブの投与量は原著(Ann Oncol. 2014;25:1044)では7.5mg/kgであるが、J Clin Oncol. 2013;31:4349では15mg/kgであるため、「7.5 or 15mg/kg」の投与量設定とする。</p> <p>シスプラチンのハイドレーションは当院の標準化に従う</p> <p>4-6コース実施</p>

記入者	安室 修
確認者	三沢 昌史